

平成23年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名		千葉県		市町村類型	Ⅴ－２		指定団体等の指定状況		区分		平成23年度(千円)	平成22年度(千円)	区分		平成23年度(千円・%)	平成22年度(千円・%)							
							財政健全化等	×	歳入総額	11,253,245	10,452,487	実質収支比率		6.3	7.2								
市町村名	横芝光町	地方交付税種地	2-2	財源超過	×	歳出総額	10,810,276	9,908,869	経常収支比率		85.6	85.9											
				首都	×	歳入歳出差引	442,969	543,618	(※1)		( 92.6 )	( 93.1 )											
				近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	36,507	70,402	標準財政規模		6,451,426	6,605,299											
					×	実質収支	406,462	473,216	財政力指数		0.50	0.53											
人口	22年国調(人)	24,675 <th colspan="3" rowspan="3">産業構造 (※5)</th> <th>中部</th> <td>×</td> <th>単年度収支</th> <td>-66,754</td> <td>-203,011</td> <th colspan="2">公債費負担比率</th> <td>10.0</td> <td>10.0</td>	産業構造 (※5)			中部	×	単年度収支	-66,754	-203,011	公債費負担比率		10.0	10.0									
	17年国調(人)	25,981 <th>過疎</th> <td>×</td> <th>積立金</th> <td>650,545</td> <td>401,220</td> <th colspan="2">健全化判断比率</th> <td></td> <td></td>				過疎	×	積立金	650,545	401,220	健全化判断比率												
	増減率 (％)	-5.0 <th>区分</th> <td></td> <th>22年国調</th> <td></td> <th>17年国調</th> <td></td> <th>山振</th> <td>×</td> <th>繰上償還金</th> <td>-</td> <td>-</td> <th colspan="2">実質赤字比率</th> <td>-</td> <td>-</td>				区分		22年国調		17年国調		山振	×	繰上償還金	-	-	実質赤字比率		-	-			
住民基本台帳人口	24.03.31(人)	25,452 <th rowspan="2">第1次</th> <th>1,420</th> <td>2,046<th>低開発</th><td>×</td><th>積立金取崩し額</th><td>200,000</td><td>-</td><th colspan="2">連結実質赤字比率</th><td>-</td><td>-</td><td></td><td></td></td>	第1次	1,420	2,046 <th>低開発</th> <td>×</td> <th>積立金取崩し額</th> <td>200,000</td> <td>-</td> <th colspan="2">連結実質赤字比率</th> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td>	低開発	×	積立金取崩し額	200,000	-	連結実質赤字比率		-	-									
	23.03.31(人)	25,658 <th>12.8</th> <td>15.6<th>指数表選定</th><td>○</td><th>実質単年度収支</th><td>383,791</td><td>198,209</td><th colspan="2">実質公債費比率</th><td>10.3</td><td>12.0</td></td>		12.8	15.6 <th>指数表選定</th> <td>○</td> <th>実質単年度収支</th> <td>383,791</td> <td>198,209</td> <th colspan="2">実質公債費比率</th> <td>10.3</td> <td>12.0</td>	指数表選定	○	実質単年度収支	383,791	198,209	実質公債費比率		10.3	12.0									
	増減率 (％)	-0.8 <th rowspan="2">第2次</th> <th>2,834</th> <td>3,675<th></th><td><th>基準財政収入額</th><td>2,313,858</td><td>2,400,439</td><th colspan="2">将来負担比率</th><td>48.8</td><td>55.4</td></td></td>	第2次	2,834	3,675 <th></th> <td><th>基準財政収入額</th><td>2,313,858</td><td>2,400,439</td><th colspan="2">将来負担比率</th><td>48.8</td><td>55.4</td></td>		<th>基準財政収入額</th> <td>2,313,858</td> <td>2,400,439</td> <th colspan="2">将来負担比率</th> <td>48.8</td> <td>55.4</td>	基準財政収入額	2,313,858	2,400,439	将来負担比率		48.8	55.4									
面積 (km <sup>2</sup> )	66.91 <th>25.6</th> <td>28.1<th></th><td><th>基準財政需要額</th><td>4,769,966</td><td>4,786,493</td><th colspan="2" rowspan="4">資金不足比率 (※4)</th><td></td><td></td></td></td>	25.6		28.1 <th></th> <td><th>基準財政需要額</th><td>4,769,966</td><td>4,786,493</td><th colspan="2" rowspan="4">資金不足比率 (※4)</th><td></td><td></td></td>		<th>基準財政需要額</th> <td>4,769,966</td> <td>4,786,493</td> <th colspan="2" rowspan="4">資金不足比率 (※4)</th> <td></td> <td></td>	基準財政需要額	4,769,966	4,786,493	資金不足比率 (※4)													
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	369 <th>6,822</th> <td>7,265<th></th><td><th>標準税収入額等</th><td>2,932,410</td><td>3,057,451</td></td></td>	6,822	7,265 <th></th> <td><th>標準税収入額等</th><td>2,932,410</td><td>3,057,451</td></td>		<th>標準税収入額等</th> <td>2,932,410</td> <td>3,057,451</td>	標準税収入額等	2,932,410	3,057,451															
世帯数 (世帯)	8,278 <th>61.6</th> <td>55.5<th></th><td><th>経常経費充当一般財源等</th><td>5,704,342</td><td>5,594,522</td></td></td>	61.6	55.5 <th></th> <td><th>経常経費充当一般財源等</th><td>5,704,342</td><td>5,594,522</td></td>		<th>経常経費充当一般財源等</th> <td>5,704,342</td> <td>5,594,522</td>	経常経費充当一般財源等	5,704,342	5,594,522															
職員の状況								歳入一般財源等				8,070,944	7,881,307										
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	10,829,686	10,222,551												
	市区町村長	1	6,840		一般職員	187	628,320	3,360	うち公的資金	7,057,183	6,978,252												
	副市区町村長	1	5,463		うち消防職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	672,690	948,441												
	教育長	1	5,058		うち技能労務職員	10	26,200	2,620	収益事業収入	-	-												
	議会議長	1	2,710		教育公務員	2	5,806	2,903	土地開発基金現在高	27,520	27,490												
	議会副議長	1	2,170		臨時職員	-	-	-	積立金現在高	財政調整基金	1,927,215						1,476,670						
	議会議員	16	2,020		合計	189	634,126	3,355		減債基金	85,370						85,310						
					ラスバイレス指数(※6)	108.0		( 99.8 )	その他特定目的基金	1,349,782	1,451,836												
	一般会計等の一覧		事業会計の一覧		公営企業(法適)の一覧		公営企業(法非適)の一覧		関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧						(※3)						
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名												
(1)	一般会計	(2)	国民健康保険特別会計	(5)	病院事業会計	(6)	農業集落排水事業特別会計	(8)	九十九里地域水道企業団(水道用水供給事業会計)	(9)	山武郡市広域水道企業団(水道事業会計)												
		(3)	介護保険特別会計			(7)	東陽食肉センター特別会計	(9)	山武郡市広域水道企業団(水道事業会計)	(10)	八匠水道企業団(水道事業会計)												
		(4)	後期高齢者医療特別会計					(11)	山武郡市広域行政組合(一般会計)	(12)	東総衛生組合(一般会計)												
								(13)	山武郡市環境衛生組合(一般会計)	(14)	匝瑳市ほか二町環境衛生組合(一般会計)												
								(15)	匝瑳市横芝光町消防組合(一般会計)	(16)	千葉県市町村総合事務組合(一般会計)												
								(17)	千葉県市町村総合事務組合(千葉県自治会館管理運営特別会計)														

(注釈) ※1：経常収支比率の( )内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。  
※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。  
※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。  
※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。  
※5：産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。  
※6：ラスバイレス指数の( )内の数値は、国家公務員の時限的な(2年間)給与改定特例法による措置が無いとした場合の値である。

(1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）					地方税の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分		
地方税	2,391,069	21.2	2,391,069	38.8	普通税	2,391,069	100.0	-		
地方譲与税	177,136	1.6	177,136	2.9	法定普通税	2,391,069	100.0	-		
利子割交付金	5,198	0.0	5,198	0.1	市町村民税	989,372	41.4	-		
配当割交付金	6,101	0.1	6,101	0.1	個人均等割	33,846	1.4	-		
株式等譲渡所得割交付金	1,240	0.0	1,240	0.0	所得割	819,953	34.3	-		
地方消費税交付金	209,936	1.9	209,936	3.4	法人均等割	55,721	2.3	-		
ゴルフ場利用税交付金	21,062	0.2	21,062	0.3	法人税割	79,852	3.3	-		
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	1,159,564	48.5	-		
自動車取得税交付金	51,556	0.5	51,556	0.8	うち純固定資産税	1,157,659	48.4	-		
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	52,207	2.2	-		
地方特例交付金	50,815	0.5	50,815	0.8	市町村たばこ税	188,494	7.9	-		
児童手当及び子ども手当特例交付金	18,797	0.2	18,797	0.3	鉱産税	1,432	0.1	-		
減収補填特例交付金	32,018	0.3	32,018	0.5	特別土地保有税	-	-	-		
地方交付税	3,364,894	29.9	3,008,515	48.8	法定外普通税	-	-	-		
普通交付税	3,008,515	26.7	3,008,515	48.8	目的税	-	-	-		
特別交付税	314,054	2.8	-	-	法定目的税	-	-	-		
震災復興特別交付税	42,325	0.4	-	-	入湯税	-	-	-		
（一般財源計）	6,279,007	55.8	5,922,628	96.1	事業所税	-	-	-		
交通安全対策特別交付金	5,349	0.0	5,349	0.1	都市計画税	-	-	-		
分担金・負担金	120,122	1.1	-	-	水利地益税等	-	-	-		
使用料	32,908	0.3	16,090	0.3	法定外目的税	-	-	-		
手数料	11,796	0.1	-	-	旧法による税	-	-	-		
国庫支出金	1,281,476	11.4	-	-	合計	2,391,069	100.0	-		
国有提供交付金（特別区財調交付金）	-	-	-	-						
都道府県支出金	631,077	5.6	-	-	区分	平成23年度	平成22年度			
財産収入	11,254	0.1	8,841	0.1	徴収率（現・計）	合計	95.8	83.5	95.5	84.0
寄附金	784	0.0	-	-	（％）	市町村民税	95.8	84.0	95.4	85.1
繰入金	315,428	2.8	-	-		純固定資産税	95.2	80.9	95.0	81.2
繰越金	543,618	4.8	-	-	公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況			
諸収入	657,226	5.8	210,406	3.4	合計	1,522,270	実質収支		249,277	
地方債	1,363,200	12.1	-	-	病院	579,996	再差引収支		193,744	
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-	上水道	83,842	加入世帯数（世帯）		5,171	
うち臨時財政対策債	500,000	4.4	-	-	下水道	43,258	被保険者数（人）		10,142	
歳入合計	11,253,245	100.0	6,163,314	100.0	と畜場	413	被保険者 1人当り	保険税（料）収入額 国庫支出金 保険給付費	83 96 214	
				国民健康保険	230,449					
				その他	584,312					

（注釈）  
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、  
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況（単位 千円・％）					
目的別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額（A）	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	114,112	1.1	-	114,112	
総務費	2,000,431	18.5	47,642	1,890,687	
民生費	2,620,785	24.2	123,096	1,485,747	
衛生費	1,281,010	11.8	11,670	1,227,633	
労働費	33,658	0.3	-	-	
農林水産業費	452,341	4.2	179,546	314,128	
商工費	77,285	0.7	8,876	74,932	
土木費	1,115,478	10.3	1,002,563	329,589	
消防費	652,670	6.0	186,591	471,291	
教育費	1,501,241	13.9	572,853	878,263	
災害復旧費	68,827	0.6	-	35,352	
公債費	892,438	8.3	-	806,241	
諸支出費	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	10,810,276	100.0	2,132,837	7,627,975	
性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	3,848,981	35.6	2,811,972	2,701,982	40.6
人件費	1,691,423	15.6	1,625,182	1,601,070	24.0
うち職員給	1,058,477	9.8	995,545	-	-
扶助費	1,265,120	11.7	380,549	294,671	4.4
公債費	892,438	8.3	806,241	806,241	12.1
元利償還金	892,438	8.3	806,241	806,241	12.1
内 うち元金	756,065	7.0	678,986	678,986	10.2
訳 うち利子	136,373	1.3	127,255	127,255	1.9
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	4,759,631	44.0	4,289,146	3,002,360	45.1
物件費	1,231,898	11.4	998,905	824,634	12.4
維持補修費	30,846	0.3	23,451	20,613	0.3
補助費等	1,970,418	18.2	1,880,503	1,495,989	22.5
うち一部事務組合負担金	781,676	7.2	781,518	725,821	10.9
繰出金	858,432	7.9	721,512	661,124	9.9
積立金	651,468	6.0	650,006	-	-
投資・出資金・貸付金	16,569	0.2	14,769	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	2,201,664	20.4	526,857	-	-
うち人件費	60,371	0.6	60,371	-	-
普通建設事業費	2,132,837	19.7	491,505	-	-
うち補助	992,653	9.2	30,225	-	-
うち単独	1,121,099	10.4	442,195	-	-
災害復旧事業費	68,827	0.6	35,352	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	10,810,276	100.0	7,627,975	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

	会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等 からの 繰入金	地方債 現在高	備考
1	一般会計	11,253	10,810	443	406	315	10,830	
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								実質赤字額
計	一般会計等(純計)	11,253	10,810	443	406		10,830	-

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

	会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額 /不足額 (実質収支)	他会計等 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高	左のうち 一般会計等 繰入見込額	資金不足 比率	備考
1	国民健康保険特別会計	3,606	3,357	249	249	300	-	-	-	
2	介護保険特別会計	1,789	1,739	50	50	335	-	-	-	
3	後期高齢者医療特別会計	213	211	2	2	68	-	-	-	
4	病院事業会計	1,158	1,142	16	233	605	1,384	1,164	-	法適用企業
5	農業集落排水事業特別会計	54	52	2	2	43	530	530	-	法非適用企業
6	東陽食肉センター特別会計	277	202	75	76	0	144	-	-	法非適用企業
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28										
29										
30										
31										
32										
33										
34										
35										
36										
37										
38										
39										
40										
41										
42										
43										
44										
45										
46										
47										
48										
49										
50										
51										
52										
53										
54										
55										
56										
57										
58										
59										
60										
61										
62										
63										
64										
65										
66										
67										
68										
69										
70										
71										
72										
73										
74										
75										
76										
77										
78										
79										
80										
81										
82										
計	公営企業会計等				612		2,058	1,694		連結実質赤字額

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

	一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額 /不足額 (実質収支)	他会計等 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高	左のうち 一般会計等 負担見込額	備考
1	九十九里地域水道企業団 (水道用水供給事業会計)	6,371	5,706	665	8,249	-	15,034	6	法適用企業
2	山武都市広域水道企業団 (水道事業会計)	4,794	4,683	111	6,121	-	1,479	-	法適用企業
3	(水道事業会計)	1,290	1,222	68	1,248	-	273	-	法適用企業
4	山武都市広域行政組合 (一般会計)	5,885	5,675	210	154	-	1,586	45	
5	東総衛生組合 (一般会計)	1,547	1,500	47	47	-	1,007	92	
6	山武都市環境衛生組合 (一般会計)	833	772	61	61	-	24	6	
7	匝瑳市及び二町環境衛生組合 (一般会計)	755	728	27	27	-	587	103	
8	匝瑳市横芝元町消防組合 (一般会計)	1,244	1,193	51	5	-	288	110	
9	千葉縣市町村総合事務組合 (一般会計)	37,699	34,267	3,432	3,432	16	-	-	
10	千葉縣市町村総合事務組合 (千葉県自治体間共同施設等特別会計)	292	249	43	43	-	-	-	
11	千葉縣市町村総合事務組合 (千葉県自治体間共同施設等特別会計)	116	100	16	16	2	-	-	
12	千葉縣市町村交通災害共済特別会 (千葉県後期高齢者医療広域連合 (後期高齢者医療特別会計)	4,434	4,342	92	91	104	-	-	
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
計	一部事務組合等				22,095		20,278	362	

公債費負担の状況

		実質公債費比率 (千円・%)			
区分		平成21年度	平成22年度	平成23年度	分母比
元利償還金	元利償還金	906,005	880,582	892,438	15.3
	減債基金積立不足算定額	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金口に対する繰入金	194,449	173,050	174,204	3.0
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	238,439	218,921	116,297	2.0
	債務負担行為に基づく支出額(公債費に準ずるもの)	-	-	-	-
	一時借入金の利子	278	-	-	-
合計		(A)	1,339,171	1,272,553	1,182,939
内訳		平成21年度	平成22年度	平成23年度	分母比
債務負担行為	PFI事業に係るもの	-	-	-	-
	いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-
	国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-
	地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
	社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-
	損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
	引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
	その他上記に準ずるもの	-	-	-	-
	利子補給に係るもの	-	-	-	-
	特定財源の額	(B)	111,599	96,061	86,197
標準財政規模		(C)	6,270,449	6,605,299	6,451,426
算入公債費等の額		(D)	533,828	546,308	599,975
		(C)-(D)	5,736,621	6,058,991	5,851,451
実質公債費比率		(単年度)	12.1	10.4	8.5
		(3年平均)	12.6	12.0	10.3

将来負担の状況

		将来負担比率 (千円・%)			
区分		平成21年度	平成22年度	平成23年度	分母比
将来負担額	一般会計等に係る地方債の現在高	9,744,582	10,222,551	10,829,686	185.1
	債務負担行為に基づく支出予定額	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額	1,781,443	1,660,659	1,693,736	28.9
	組合等負担等見込額	519,933	339,532	362,735	6.2
	退職手当負担見込額	2,535,430	2,882,673	2,513,977	43.0
	設立法人等の負債額等負担見込額	-	-	-	-
	連結実質赤字額	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-
	合計	(E)	14,581,388	15,105,415	15,400,134
	充当可能基金	2,554,364	2,881,697	3,121,160	53.3
将来負担比率	充当可能特定歳入	389,653	306,649	252,023	4.3
	基準財政需要額算入見込額	7,876,813	8,558,994	9,166,943	156.7
	合計	(F)	10,820,830	11,747,340	12,540,126
	将来負担比率	(E)-(F) / ((C)-(D)) × 100	65.5	55.4	48.8
	健全化判断比率	平成23年度	早期健全化基準	財政再生基準	
	実質赤字比率	-	14.25	20.00	
	連結実質赤字比率	-	19.25	30.00	
	実質公債費比率	10.3	25.0	35.0	
	将来負担比率	48.8	350.0		
	内訳				
企業債等繰入見込額	PFI事業に係るもの	-	-	-	-
	いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-
	国営土地改良事業に係るもの	-	-	-	-
	森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-
	地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
公債費等繰入見込額	依拠土地の買い戻しに係るもの	-	-	-	-
	社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-
	損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
	引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
	その他上記に準ずるもの	-	-	-	-
公債費等繰入見込額	病院事業会計	1,201,864	1,105,945	1,163,906	19.9
	農業集落排水事業特別会計	579,579	554,714	529,830	9.1
	東陽食肉センター特別会計	-	-	-	-
	その他の会計	-	-	-	-
	地方道路公社に係る将来負担額	-	-	-	-
公債費等繰入見込額	土地開発公社に係る将来負担額	-	-	-	-
	その他第三セクター等に係る将来負担額	-	-	-	-

※地方公共団体が①25%以上出資している法人又は②財政支援を行っている法人を記載している。

※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

	地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は 正味財産	当該団体 からの 出資金	当該団体 からの 補助金	当該団体 からの 貸付金	当該団体から の債務保証に 係る債務残高	当該団体から の損失補償に 係る債務残高	一般会計等 負担見込額	備考
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	25,452人(H24.3.31現在)	実収支差	-	%
面積	66.91km <sup>2</sup>	実収支差	-	%
人口密度	11,253.245人/km <sup>2</sup>	実収支差	10.3	%
人口総数	10,810,276千円	実収支差	48.8	%
人口総額	406,462千円	市町村別		
人口総額	6,451,426千円	市町村別		
人口総額	10,829,686千円	市町村別		

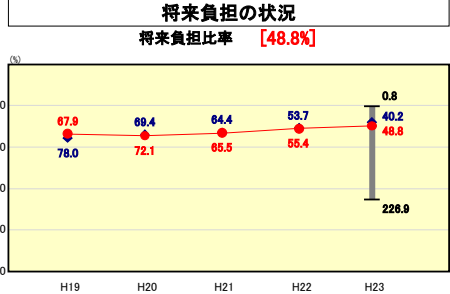
※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。

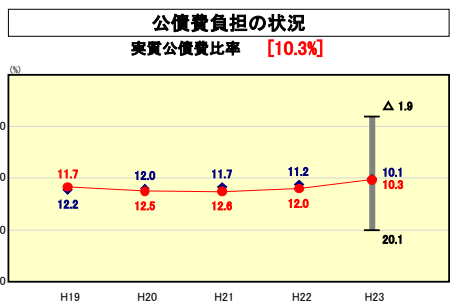
※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。



将来負担比率の分析欄

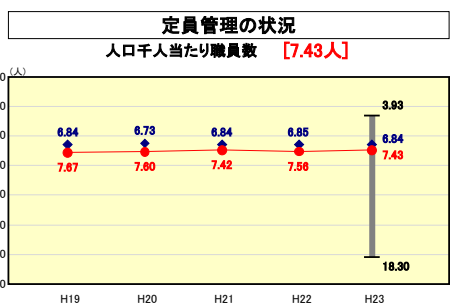
類似団体平均を8.6ポイント上回っているが、平成22年度と比較すると6.6ポイント減少している。主な要因は、市町村合併関連の防災行政無線更新事業、河川の橋梁架替事業などの大型建設事業による地方債現在高の増要因があるものの、充当可能基金及び基準財政需要額算入見込額が増加していることから比率は改善傾向である。

合併特例事業については、今後もしばらくは続くことから地方債現在高は引き続き高い水準が予測される。



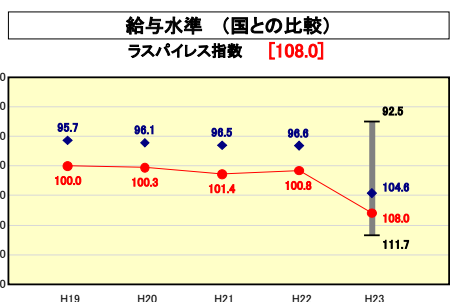
実質公債費比率の分析欄

類似団体平均を0.2ポイント上回っている。今後、小学校屋内運動場改築事業、河川の橋梁架替事業、道路改良事業などの大型建設事業の起債の償還により上昇していくことが見込まれる。普通交付税措置や地方債の償還費等に充当可能な特定の歳入となるような財源措置の見込める事業の選択を行い、実質公債費比率の上昇を極力抑えるよう努める。



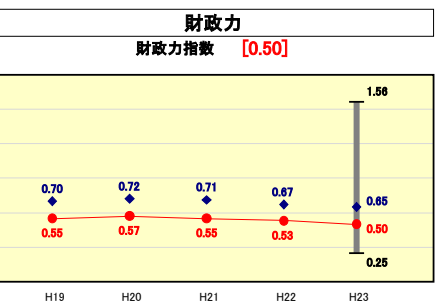
人口千人当たり職員数の分析欄

類似団体平均を0.59ポイント上回っている。平成22年度と比較すると0.13ポイント下回ってはいるが、今後も定員適正化計画や集中改革プランに基づき、職員数を抑制しつつ年齢階層の不均衡は正や組織の適正配置を考慮しながら適正化を図っていく。



ラスパイレス指数の分析欄

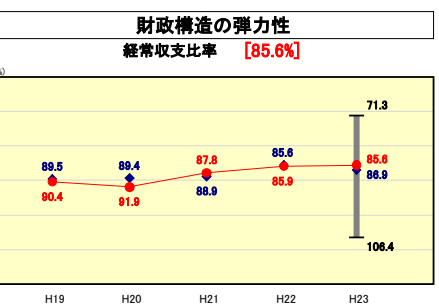
類似団体平均を3.4ポイント上回り、前年度と比較して7.2ポイント上昇している。要因として、国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律(平成24年法律第2号)による国家公務員給与の改定があげられる。今後、人事院や千葉県人事委員会の勧告制度を踏まえ、集中改革プランに沿った給与制度、運用及び水準の適正化に努める。



財政力指数の分析欄

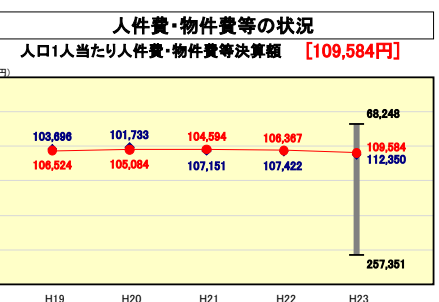
停滞する町税収入に対し、人口の減少と高齢化率の上昇(平成24年4月1日現在 29.07%)が主な要因となり、当町の財政力指数は類似団体平均を0.15ポイント下回る0.50となった。

今後も、町税収入の大きな伸びは期待できないことに加え、高齢化率の上昇による基準財政需要額の増加は避けられないことから、町税の徴収率向上を図り、退職職員の補充抑制、事務事業の見直しなどを行い、第1次総合計画、集中改革プランに沿った計画的な事業展開により、行政の効率化と財政健全化を図る。



経常収支比率の分析欄

平成22年度と比較して0.3ポイント減少し、類似団体平均を1.3ポイント下回った。退職職員の補充抑制による人件費や、償還終了などにより一部事務組合に対する負担金は減少したものの、航空機騒音に対するものなど補助費等では類似団体平均と比較して大きく上回っている。航空機騒音地域という特殊性は考慮しなければならないが、今後とも、内部管理的経費の抑制、補助金交付事業の見直しや一部事務組合に対する効率的な運営の促進・精査を行い、経常経費の一層の節減合理化に努める。



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

類似団体平均を2,766円下回った。主な要因としては、民間でも実施可能な部分について委託化を推進したことなどから人件費に係るコストの低減が図られたためである。平成22年度と比較すると3,217円増額となったものの、全国市町村平均や千葉県市町村平均についても下回っている。今後は、義務的経費を更に抑制するため、時間外勤務手当の縮減、適正な給与改定、新規職員採用の抑制や事務の効率化を図りコスト低減に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成23年度

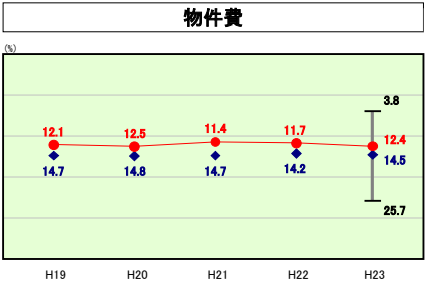
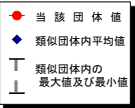
千葉県横芝光町

経常収支比率の分析

人口	25,452人	(H24.3.31現在)
面積	66.91km <sup>2</sup>	
総人口	11,253,245千円	
総収入	10,810,276千円	
総支出	406,462千円	
標準財政規模	6,451,426千円	
地方債現在高	10,829,686千円	

実収支比率	- %
実収支比率	- %
実収支比率	10.3 %
実収支比率	48.8 %
市町村類型	H19 H20 H21 H22 H23
市町村類型	V-2 V-2 V-2 V-2 V-2

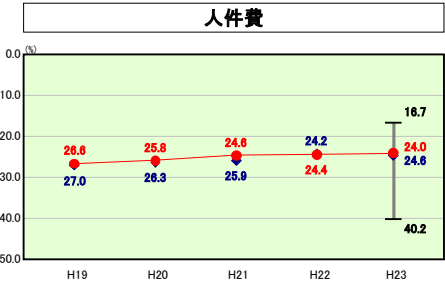
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



類似団体内順位 39/141 全国平均 13.1 千葉県平均 16.5

**物件費の分析値**

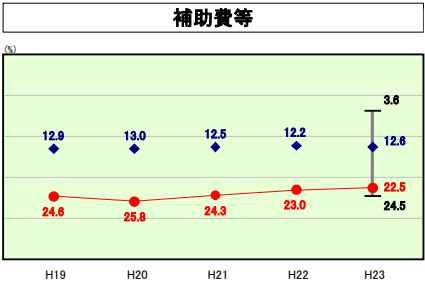
類似団体平均を2.1ポイント下回っており、平成22年度と比較すると0.7ポイントの増加となった。僅かではあるが増加傾向にあるため、臨時職員の見直し、施設の維持・管理経費の抑制等、経常的経費の節減に努める。



類似団体内順位 72/141 全国平均 25.4 千葉県平均 29.2

**人件費の分析値**

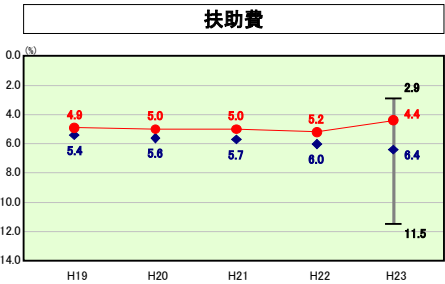
平成22年度と比較すると0.4ポイントの減少となり、類似団体平均を0.6ポイント下回った。定員適正化計画や集中改革プランに掲げている定員管理の適正化、給与の適正化、特別職給与の10%削減の継続実施など、人件費の上昇抑制に努めた結果、ほぼ横ばいとなった。



類似団体内順位 139/141 全国平均 10.1 千葉県平均 8.0

**補助費等の分析値**

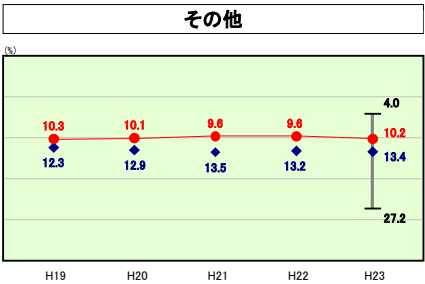
類似団体平均を9.9ポイント上回っている。航空機騒音防止対策事業の実施地域といった特殊要因があることや、地域の医療ニーズに応えるため町立病院を経営しており、一般会計から病院事業会計への繰出金が性質上補助費として計上されていることも一つの要因である。今後は、各種団体への運営的な補助金においては、事業の収支状況や運営状況を把握した上で、効果的な補助制度を検証していく。



類似団体内順位 22/141 全国平均 10.5 千葉県平均 10.0

**扶助費の分析値**

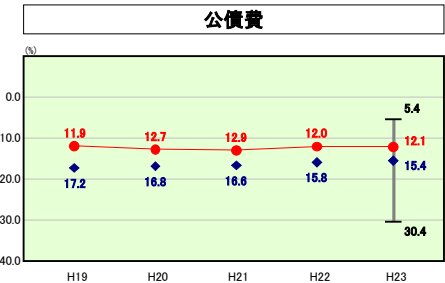
平成22年度と比較して0.8ポイント減少し、類似団体平均を2.0ポイント下回ってはいるが、金額は増加傾向にある。医療費無料化の対象を小学校6年生から中学校3年生まで拡げたことや、特定疾患見舞金支給事業など町独自の施策が要因としてあげられる。経済状況や高齢化率を鑑みると、今後も増大する傾向にある。



類似団体内順位 19/141 全国平均 12.2 千葉県平均 11.1

**その他の分析値**

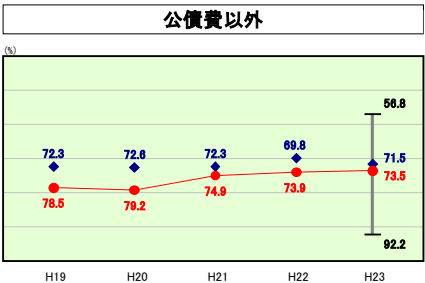
類似団体平均を3.2ポイント下回ってはいるが、その多くを繰出金が占めている。高齢化率が上昇する中で国民健康保険特別会計、介護保険特別会計及び後期高齢者医療特別会計への繰出金が大きく、赤字補てん的な要素が大きい。制度を踏まえ、今後も特別会計の運営状況を把握し、国民健康保険税や各種保険料の確保や経費節減に努め、普通会計の負担縮減を図っていく。



類似団体内順位 34/141 全国平均 19.0 千葉県平均 16.2

**公債費の分析値**

類似団体平均を3.3ポイント下回ってはいるが、小学校屋内運動場改築事業、河川の橋梁事業、道路改良事業などの市町村合併に絡む大型建設事業の実施により地方債償還額が上昇傾向となることが予測される。今後も合併特別債事業の新規地方債発行が見込まれていることから、事業の投資効果、緊急度、必要性、国庫・県支出金などの財源措置等を十分勘案し、新規地方債発行を極力抑え、現在高の上昇を抑制するよう努める。



類似団体内順位 89/141 全国平均 71.3 千葉県平均 74.8

**公債費以外の分析値**

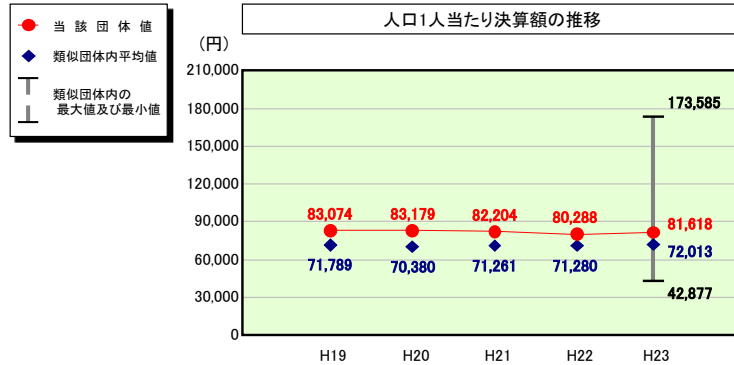
人件費や補助費等が減少してきたため比率は改善傾向であるが、類似団体と比較すると2.0ポイント上回っている。補助費等は航空機騒音防止対策事業を行っていることや、町立病院を経営していることなど特殊要因があり比率は高くなっている。扶助費は、類似団体平均を下回っているものの増加傾向であり、今後も増大が見込まれる。今後はさらなる内部管理的経費の抑制や補助金交付事業の見直し等を行い、経常経費の節減に努める。

## (4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成23年度

千葉県横芝光町

### 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



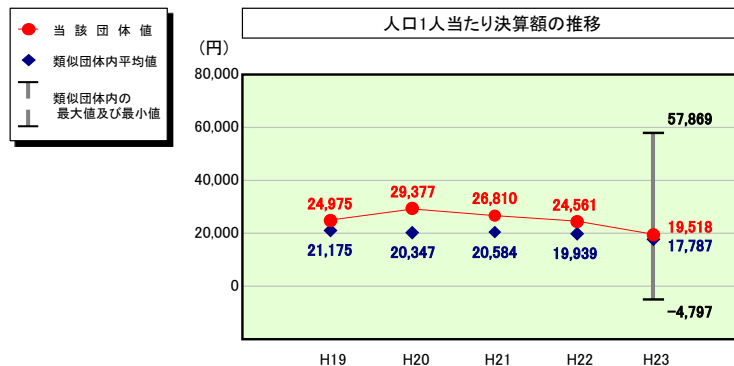
### 人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	1,691,423	66,455	61,044	8.9
賃金 (物件費)	28,737	1,129	5,187	▲ 78.2
一部事務組合負担金 (補助費等)	419,762	16,492	7,864	109.7
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等)	-	-	171	-
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金)	-	-	5	-
公営企業 (法非適) 等に対する繰出し (繰出金)	102,441	4,025	3,054	31.8
事業費支弁に係る職員の人件費 (投資的経費)	60,371	2,372	1,187	99.8
▲退職金	▲ 225,399	▲ 8,856	▲ 6,500	36.2
合計	2,077,335	81,618	72,013	13.3

### 参考

	当該団体	類似団体平均	対比 (差引)
人口1,000人当たり職員数 (人)	7.43	6.84	0.59
ラスパイレズ指数	108.0	104.6	3.4

### 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

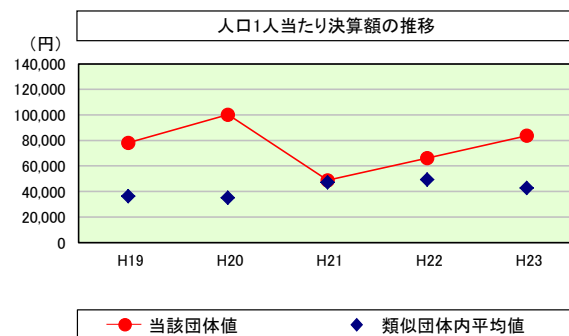


### 公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	892,438	35,064	35,442	▲ 1.1
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	7	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	174,204	6,844	10,472	▲ 34.6
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	116,297	4,569	3,331	37.2
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	-	-	1,294	-
一時借入金利子 (同一団体に於ける会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	5	-
▲特定財源の額	▲ 86,197	▲ 3,387	▲ 3,340	1.4
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 599,975	▲ 23,573	▲ 29,424	▲ 19.9
合計	496,767	19,518	17,787	9.7

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

### (参考) 普通建設事業費の分析



### 普通建設事業費

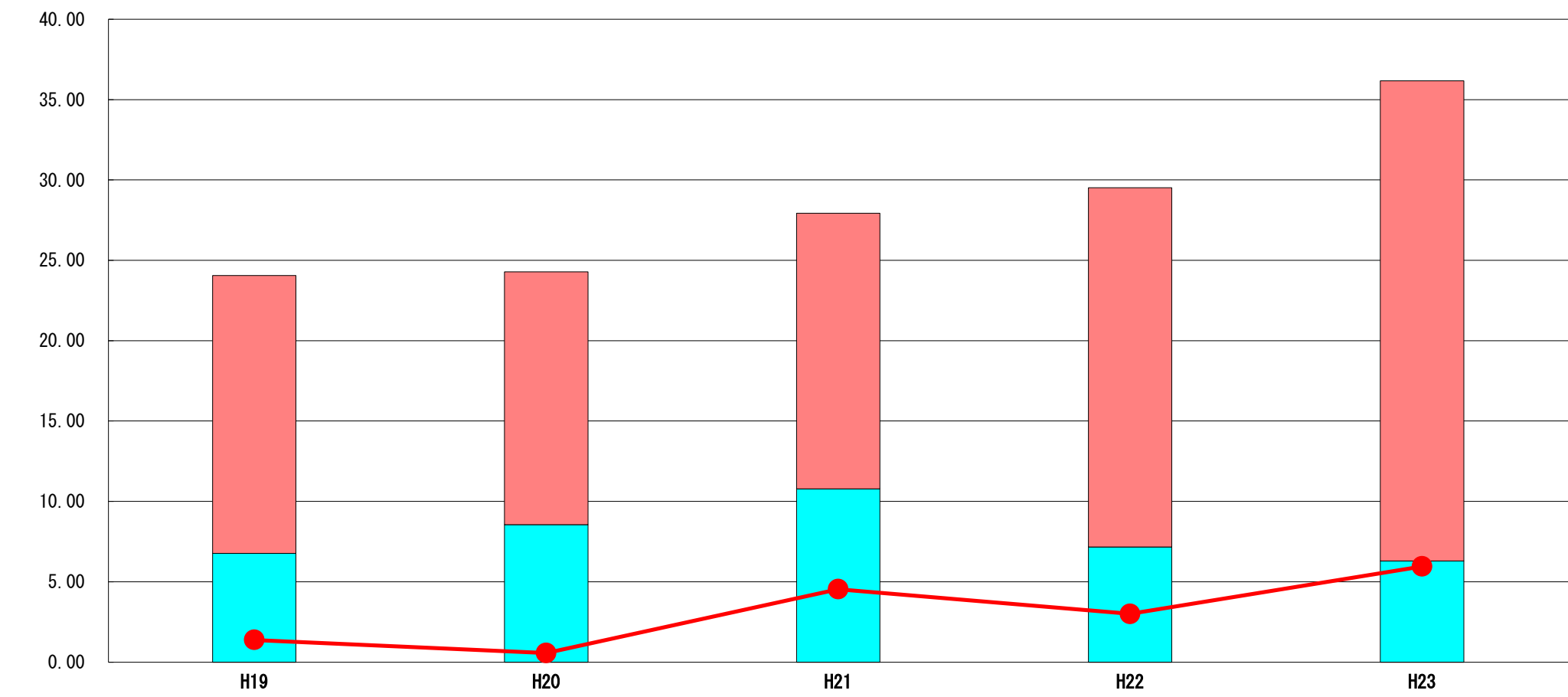
	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H19	2,046,885	78,069	84.8	36,358	▲ 12.9	97.7
うち単独分	1,390,869	53,048	58.3	21,039	▲ 18.6	76.9
H20	2,608,626	100,193	28.3	35,141	▲ 3.3	31.6
うち単独分	1,495,469	57,439	8.3	20,483	▲ 2.6	10.9
H21	1,261,522	48,753	▲ 51.3	47,258	34.5	▲ 85.8
うち単独分	909,077	35,132	▲ 38.8	27,842	35.9	▲ 74.7
H22	1,696,670	66,126	35.6	49,426	4.6	31.0
うち単独分	1,046,675	40,793	16.1	26,568	▲ 4.6	20.7
H23	2,132,837	83,798	26.7	42,839	▲ 13.3	40.0
うち単独分	1,121,099	44,048	8.0	22,027	▲ 17.1	25.1
過去5年間平均	1,949,308	75,388	24.8	42,204	1.9	22.9
うち単独分	1,192,638	46,092	10.4	23,592	▲ 1.4	11.8

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成23年度

千葉県横芝光町

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

年度		H19	H20	H21	H22	H23
区分	財政調整基金残高	17.29	15.73	17.15	22.36	29.87
	実質収支額	6.77	8.55	10.78	7.16	6.30
	実質単年度収支	1.38	0.56	4.54	3.00	5.95

**分析欄**

平成23年度の実質収支比率は6.30となり、昨年より0.86ポイント減少したものの適正水準が3～5%と言われていることから、その水準を超過している。また、財政調整基金の標準財政規模比は7.51ポイント増加した。

合併支援措置が完了する前に財政調整基金残高を増額し、後年度に続く健全な財政運営に努める。

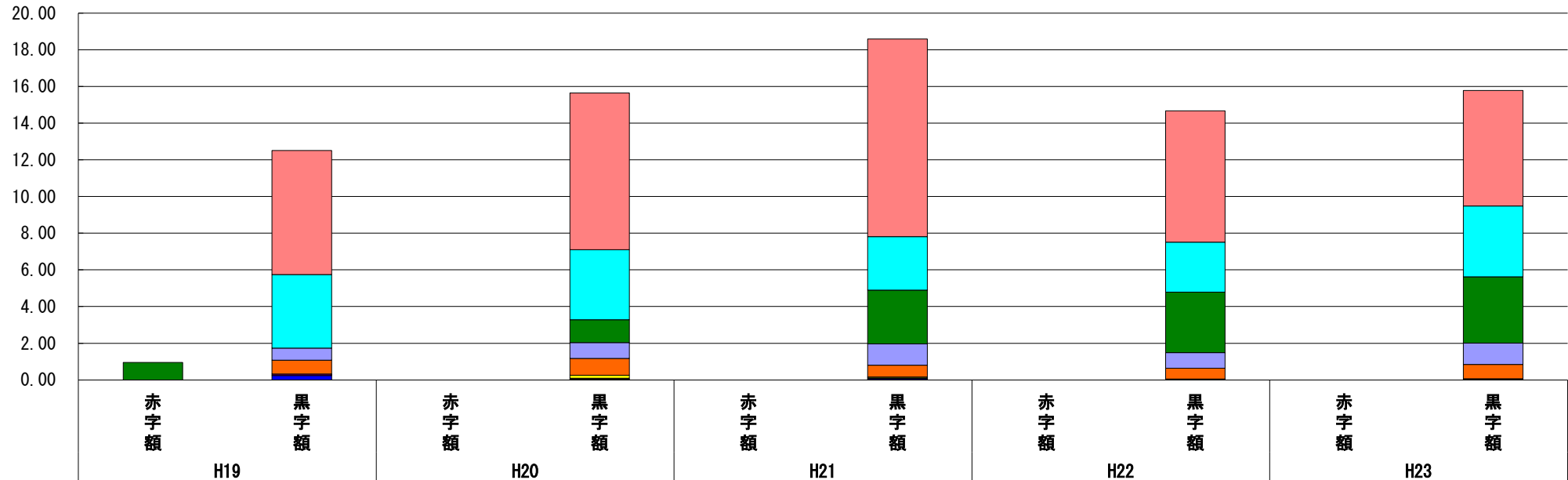


(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成23年度

千葉県横芝光町

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

年度		H19	H20	H21	H22	H23
会計						
	一般会計	6.77	8.55	10.78	7.16	6.30
	国民健康保険特別会計	4.00	3.82	2.91	2.72	3.86
	病院事業会計	▲ 0.95	1.25	2.93	3.30	3.61
	東陽食肉センター特別会計	0.67	0.86	1.17	0.85	1.17
	介護保険特別会計	0.75	0.91	0.64	0.59	0.78
	後期高齢者医療特別会計	-	0.17	0.06	0.03	0.03
	農業集落排水事業特別会計	0.08	0.04	0.04	0.02	0.03
	その他会計（赤字）	-	-	-	-	-
	その他会計（黒字）	0.24	0.05	0.06	0.00	-

分析欄

各会計ともに実質収支額は黒字決算されているため、実質赤字比率及び連結実質赤字比率は計上されていない。病院事業会計及び国民健康保険特別会計では、一般会計からの基準外繰入金を計上している。  
今後も各事業会計の経営安定に努め、財政健全化を進めたい。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

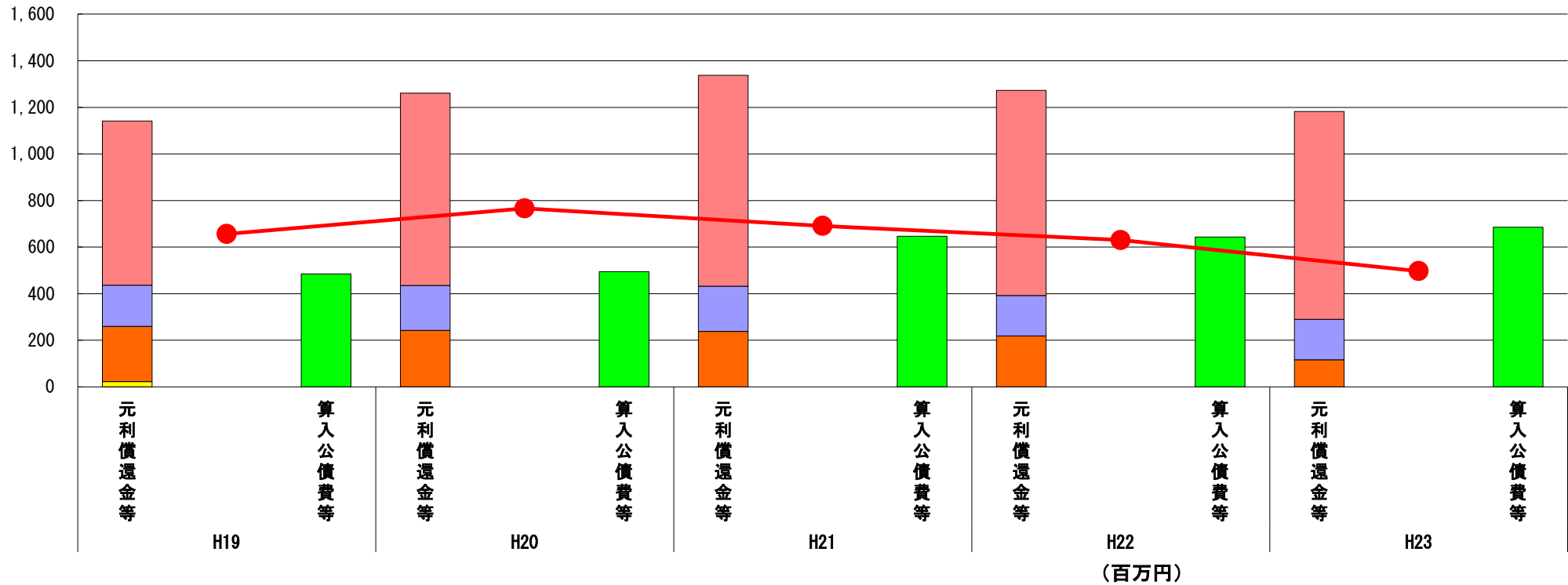


# (7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

千葉県横芝光町

（百万円）



分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
元利償還金等 (A)	元利償還金		705	826	906	881	892
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		176	193	194	173	174
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		237	242	238	219	116
	債務負担行為に基づく支出額		23	-	-	-	-
	一時借入金の利子		-	-	0	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		485	495	647	643	685
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		656	766	691	630	497

## 分析欄

元利償還金は、地域総合整備事業債の償還終了により減少したものの、これを上回る臨時財政対策債や大型建設事業での合併特例事業債の元金償還が順次始まったことにより増加となった。合併特例事業は、引き続き執行されることから、しばらく増加が予測される。

また、組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等では、償還終了により大きく減少した。

今後も新規発行の抑制に努めるとともに、発行に当たっては財政効果を十分に検討した上で有利な起債を選択する。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

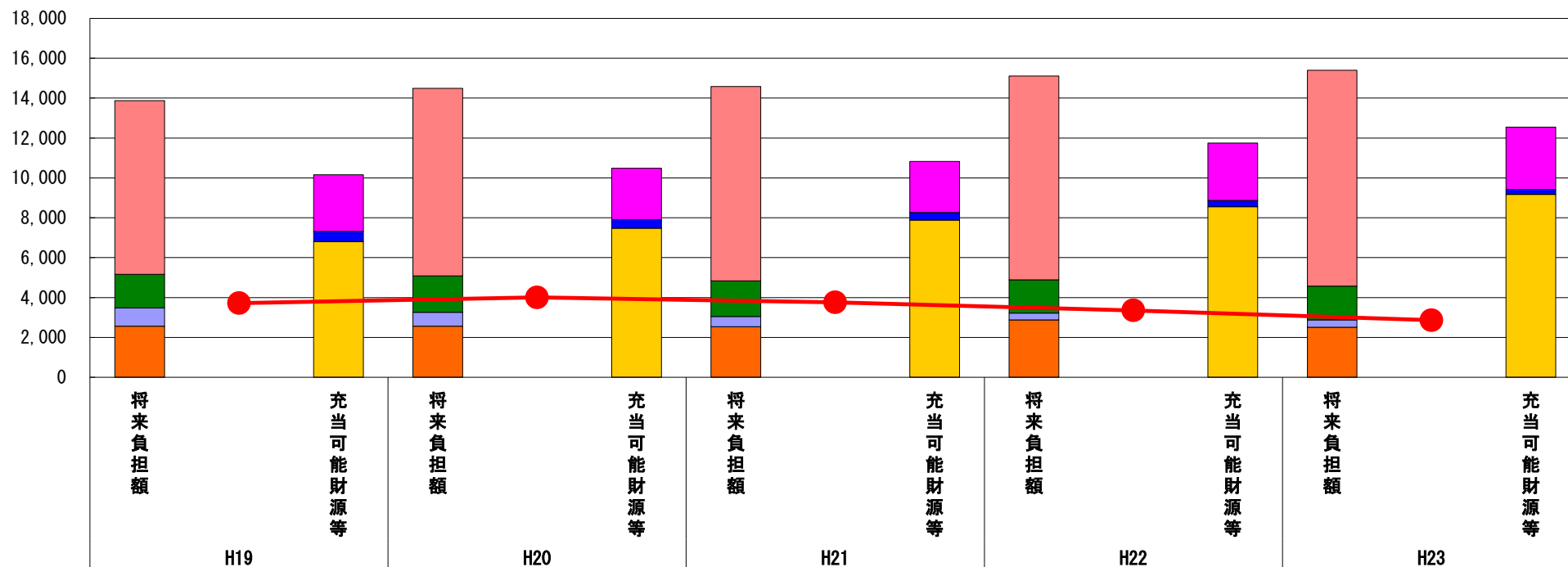
※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

千葉県横芝光町

（百万円）



（百万円）

分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		8,708	9,399	9,745	10,223	10,830
	債務負担行為に基づく支出予定額		-	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		1,686	1,826	1,781	1,661	1,694
	組合等負担等見込額		920	699	520	340	363
	退職手当負担見込額		2,561	2,565	2,535	2,883	2,514
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		2,836	2,576	2,554	2,882	3,121
	充当可能特定歳入		514	432	390	307	252
	基準財政需要額算入見込額		6,809	7,478	7,877	8,559	9,167
(A) - (B)		将来負担比率の分子	3,717	4,004	3,761	3,358	2,860

## 分析欄

将来負担額中で大きな比率を占める一般会計等に係る地方債の現在高は、合併特例事業債や臨時財政対策債の発行が続いているため増加しているが、退職手当負担見込額は職員数の減により昨年から369百万円減少している。また、充当可能基金の財政調整基金及び基準財政需要額算入見込額が増加したことから将来負担比率は改善されている。

今後も継続的に将来負担比率の分子を抑制できるよう財政の健全化を進める。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。